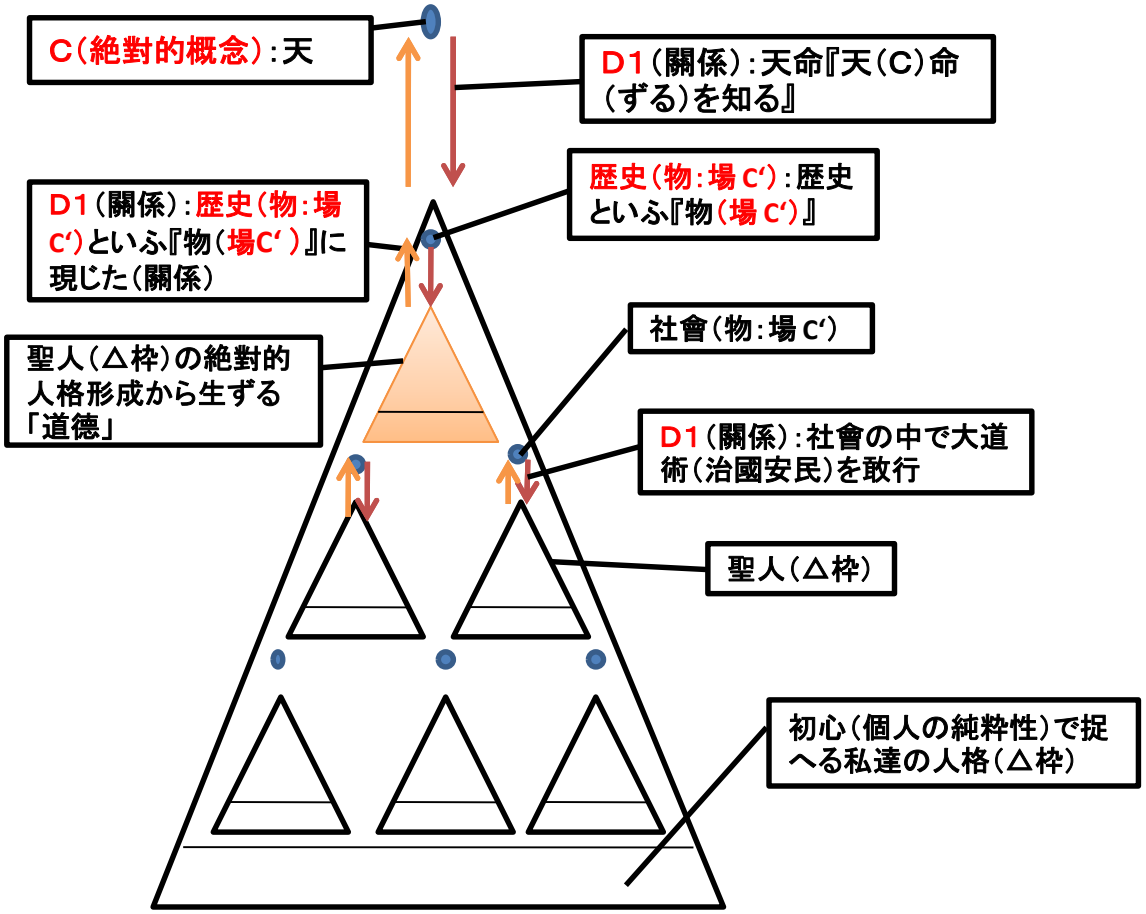
《難解 小林秀雄には 恒存の關係論が最適》

《小林秀雄評論 『道德』（『考へるヒントⅡ』）》
＊「徂徠の、道德の考へ方の上で殆どその價値轉換〔とは、『歴史（物：場C‘）に現じた聖人の人格＋社會（物：場C‘）⇒からの關係：道德』〕とも言つていいものが現れたのは、歴史（物：場C‘）と、社會（物：場C‘）との考への、學問へのはつきりした導入によつた。つまり、『耳は幾千載（物：場C‘）に飛行して歴史（物：場C‘）の聲を聞き（各：D1の至小化）、眼は廣く社會（物：場C‘）の事實（物：場C‘）にわたるのを學問（D1の至大化）の道とする』と言ふのだ」。

＊天（絶對的概念）⇒天命を知る⇒聖人（作る人）⇒①「社會の中で大道術（治國安民）を敢行＋歴史に絶對的人格形成」⇒からの關係：②道德⇒①②を初心で捉へる（徂徠思想）⇒私達の人格　①②への適應正常。